

2017年10月12日

継続雇用制度の改善にとりくみ、定年延長の議論をはじめよう

出版労連／賃金・社会保障対策部

先般、公務員の定年延長が報道されました。大手企業にも同様の動きが起こり始め、60歳を越えても働き続けることが前提となる社会を迎えています。出版労連 賃金・社会保障対策部では、先期から定年制度についての議論を行っています。現在出版労連の統一要求基準は継続雇用制度についてのもののみですが、定年制度について一定の方向を示すことは喫緊の課題であると言えます。

では、実際にみなさんの職場では、60歳以降の働き方はどうなっているのでしょうか。年金をはじめとする国の社会保障制度は年々厳しくなっています。それに伴い被継続雇用者の生活も厳しいものになってきているのではないのでしょうか。定年制度を考えるにあたっては、まずは今ある継続雇用制度をチェックし、その改善を求めることから始めましょう。秋季・年末闘争に向けての要求づくりは、職場の状況、それぞれの賃金や働き方を改めて考え、見直し、チェックする機会でもあります。

✓60歳定年時から下がっている労働条件が何なのかチェックしよう

✓職場で共に働いている被継続雇用者に話を聞いてみよう

✓単組・職場として「みんなの要求」とできる部分がないか検討しよう